

Ⅲ 成果と課題

両園の研究の成果と課題を以下の3点でこの研究の成果と課題としてまとめてみたい。

1 幼稚園における学校運営協議会の意義

京都市立幼稚園では、平成18年2月にみつば幼稚園の学校運営協議会発足を皮切りに、平成28年度現在12園で学校運営協議会を設立しており、残りの4園についても、学校評議員制度のもと、地域の諸事情を鑑み、学校運営協議会設立の準備を進めているところである。(P89 京都方式の学校運営協議会基本構想図参照)

いずれにせよ、それぞれの地域の状況は異なっている、園児にとって“身近な社会”である地域とのかかわりを大切にしたい取組を進めている。(P93 参考資料参照)

今回、地域も規模も違うみつば幼稚園と深草幼稚園の学校運営協議会の取組の成果から、幼稚園における学校運営協議会の意義をまとめる。

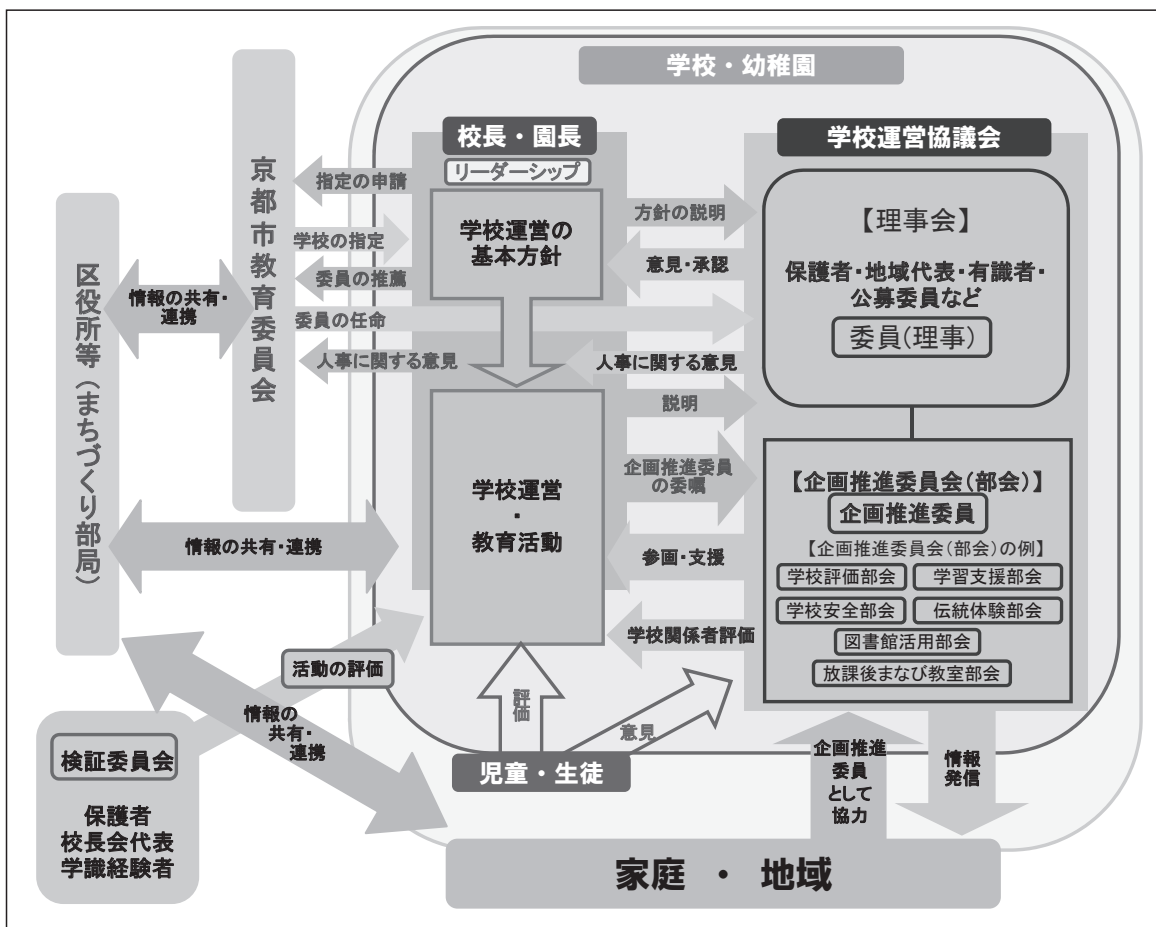
- (1) 幼児にとっての遊びや生活は、家庭、地域、幼稚園がその中心であることから、3者の連携は非常に大切なものである。それだけに「幼稚園の応援団、ご意見番」としての学校運営協議会の存在は、他校種以上にかかわりの深いものである。特にみつば幼稚園の研究では、10年前と比較して「保護者世代の地域社会へのかかわり」が薄くなる傾向が保護者のアンケートからみられた。このような昨今の状況において幼児、保護者、地域をつなぐ幼稚園における学校運営協議会の役割は大きい。
- (2) 学校運営協議会の方々とともに保育を計画する試みは、教職員にとっても意義深いことである。「地域とつなぐ」「人とつなぐ」ことを意識して自らの保育を創造する経験は、そのための新たな視点が増え、教員として大きな力となる。何より、「園児や幼稚園のことを大事に思う地域の方々の存在」は、自らの大きな励みにもなるだろう。
- (3) 両園の事例からも言えるように、親しみやすい名称を付けることが肝要である。園児にとって「学校運営協議会」という名称はイメージしにくく、馴染みにくいことがよくわかる。「みつばの森」「なかよし会」という名称をつけ、そこに属する「〇〇さん」と名前を呼び合える関係ができてこそ、学校運営協議会の活動が園児にとって意義あるものになることがわかった。組織的な活動であるが、心をつなぐ活動を引き出すのは「人とのつながり」であることを再確認した。
- (4) 学校運営協議会の方々の幼稚園の教育活動への参画意欲の源は、「園児の変容・園児の育ち」であることがわかった。園児の喜ぶ姿を見ることが、次への意欲につながっていることがわかる。実際にふれあいかかわることで感じてもらうことが一番ではあるが、関係者評価の際に「園児の育ち」を伝える必要性についても感じる。
また、地域での自然体験や社会体験、地域の方々とのかかわりは、一過性でなく、継続した取組として教育課程（指導計画）に位置付けられて行われることに意義がある。その上で、取組や活動の意義を、常に「園児にとってどうだったか」の視点で柔軟に見直し、改善することが重要である。みつば幼稚園が「毎年こうしている

から」「この取組は変えられないから」というのではなく、幼稚園の願いを伝えつつ、「園児の育ち」に返して、学校運営協議会の取組を見直し、その成果を共有したことがこそが意義深いと考える。

(5) 人事異動がある教職員にとって、学校運営協議会があり、組織的・継続的に幼稚園を支えてくださっていることが心強い。「みつばの森」を10年間支えてくださった理事の方々の言葉の重みが心に響く。また、統合により開園したみつば幼稚園にとっては、今のみつば幼稚園に一番近い学校運営協議会の方々が、幼稚園の教育に参画して下さることを通して、広い地域の方々と幼稚園をつなぐ役割を果たして下さっていることがわかった。

さらには、保護者と学校運営協議会をつなぐ役割を幼稚園が果たす必要性を感じた。保護者は卒園されたら一番近い地域の方になられることを念頭に置き、今後はより一層、保護者を巻き込む組織づくり、学校運営協議会と保護者をつなぐ具体的な取組の工夫を実践から明らかにしていきたい。

京 都 方 式 の 学 校 運 営 協 議 会 基 本 構 想 図



2 「社会に開かれた教育課程」の実効性ある取組について

京都市立幼稚園では、平成 16～17 年度に文部科学省の委託を受け、『自然体験や社会体験を通して、幼児が生涯にわたって主体的に生きる力を育む』～『学校評価システム』を活用した地域における公立幼稚園が担う役割についての実践的調査研究～』という主題のもと、幼児が地域の方々の力を借りて自然体験や社会体験をすることの意義や学校評価システムを保育の改善に生かす意義等について研究を行った。その後、幼稚園における学校評価には、学校教育の一番目という認識のもと、年々改善を図り、現在は、全 16 園で「幼稚園の経営方針」「学校評価の年間計画」「自己評価及び学校運営協議会や評議員による関係者評価、改善策」をホームページに公表している。その意味では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、いち早く取り組んできたと言える。

しかしながら、これらの取組が「社会に開かれた教育課程」の実現につながるような、より分かりやすい発信を工夫する意識が薄く、関係者評価をいただく場で具体的にどのような発信が必要なのかを検討することがなかった。今回は、地域とのかかわりを保育に位置付け、「年間指導計画（地域とともに）」を作成した深草幼稚園の実践をもとに「社会に開かれた教育課程」の実効性ある取組についてその意義をまとめる。

(1) 深草幼稚園では、地域とのかかわりを学校運営協議会「なかよし会」とともに実践してきたことを従来の教育課程（指導計画）に明示し、関係者評価をいただく試みの場をもったところ、ご意見が出なかったという経験をした。従来は、1 学期の取組を振り返り、自己評価の公表をしてご意見をいただいていたが、さらに一歩進めたい思いでの試みだったが、専門的な用語でまとめた教育課程ではわかりづらいことがはっきりとわかった。

そこで、視覚的にもわかりやすい「年間指導計画（地域とともに）」を作成し、再度試みたところ、様々なご意見をいただくことができた。幼児教育は見えにくく、育てたいねらいや活動の意図、園児の育ちが非常にわかりづらい。予想できたこととはいえ、非常に反省した。実効性のある「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、特に幼児教育においては、「わかりやすい発信」が不可欠であることを痛感した。

(2) 学校運営協議会の理事の方々は、実際の園児との継続的な触れ合いの中で、「○○ちゃんの育ち」を自分とのかかわりのエピソードを通して実感しておられ、その育ちの姿を見ることが次の活動への意欲となっていることがわかった。今回の研究のように、幼稚園側も具体的な園児のエピソードから園児の育ちを発信することが、理事の方々の喜びにつながり、さらに幼児の地域や社会とのつながりを深めていくことを実感した。常に「自分たちは園児のために何ができるか」を考えておられる姿勢がありがたく、地域に支えられた公立幼稚園の在り方を再確認した。

(3) 園の教育目標、経営方針は毎年大きく変わるものではない。ただ、その年々に研究すべき内容や取組、園児の実態や課題等を踏まえ、多くのことを改善していく必

要がある。まずは、園に一番関係の深い保護者、学校運営協議会、地域を中心に信頼関係を築き、園児のためにそれぞれの立場で何ができるかを共に考える組織づくりが大きな課題である。組織的、継続的にその中心となる学校運営協議会の存在は大きく、その基盤の上でこそ、より実効性のある「社会に開かれた教育課程」の実現につながるのではないかと考える。

3 社会生活とのかかわりがもたらす幼児の育ちについて

今回、園児が地域社会とかかわることで育つものを明らかにしたいと願い、研究を進めた。限られた研究期間で、多くのエピソードを集約することはできなかったが、京都市の特徴でもある学校運営協議会を核とした連携を通して、見えてきた園児の育ちの成果と課題についてまとめる。

(1) 両園のエピソードから、「名前の呼び合える関係」が非常に大切であることがわかった。ゲストティーチャーを招聘することも園児の体験の幅を広げる意味では大切なことだと思われるが、何より一番身近な学校運営協議会の方と継続的にかかわること、「名前の呼び合える関係」をつくることが、地域の方々にも親しみをもつことにつながるということがわかった。

(2) 地域社会とのかかわりが、継続的な取組であることも大事である。みつば幼稚園の「特別養護老人ホーム」とのふれあい活動や深草幼稚園の風緑や園外保育の取組等は、ずっと継続されてきたものである。そのことが、「年長組になったらまた特養さんに行ける」、「また今度も畑に行ける、Kさんに会える」等の見通しを園児に持たせることにつながり、活動を楽しみに思い、その人への思いを馳せることのできる経験につながると考える。そのことが深く地域へ思いを馳せることにつながるのではないだろうか。

(3) 教員は、より子どもの育ちが深まるように指導計画を見直し、取り組むことが肝要である。深草幼稚園では、昨年度までの取組を見直し、より地域とのかかわりが深まるように、地域の方を思い出せるように保育室の環境を整えたり、自分たちの思いが込められるような花や野菜の苗を育て、地域の方々にもらってもらう取組にしたりした。そのことが後に、地域に自分たちの花や野菜が育っている喜びにつながり、みんなの願い事を書く七夕の短冊につながった。体験が多様に関連し、保育がなされていくことで、地域に役立つ自分を感じ、園児自身のテリトリーが地域に広がり、公共心の芽生えが育まれることがわかった。

また、みつば幼稚園では、初めての園でのお泊り保育で、京都の伝統的な習わしである「門掃き」の体験を入れることで、「地域に貢献できる自分」を感じ、特別養護老人ホームとの交流では、出向くだけでなく、幼稚園にお招きすることで「おもてなしの心」が育つことがわかった。このように、地域社会に親しみや愛着をもつことに加え、地域社会への参画意識の芽生えや地域に役立つ自分を実感

することができたと考える。それらの活動には、「このような心を育むためにはどのような活動がふさわしく、どのような援助や環境が必要か」という教員の適切な保育計画と園児とともに心を動かし楽しむ丁寧な援助、細やかな環境構成、園児の育ちを見取る目が重要であることを再確認した。地域社会を巻き込んで、願いをもって保育を創る力量があつてこそその園児の育ちである。

(4) 年長組になると、小学校との交流等で地域に出向くことが増え、徐々に「地域の一員としての自覚」や「公共心の芽生え」も育まれることを再確認した。深草幼稚園では、稲荷小学校の校長先生の「深草地域の仲間」という言葉が直接的なきっかけとなったが、実際に地域に出向く取組や地域の方々に触れる取組を経験すること、「自分の願い」と「みんなの願い」を区別して書いた七夕の短冊づくりの活動が、「地域の一員としての自覚」や「公共心の芽生え」を園児の心に定着させたように考える。みつば幼稚園では、地域の組織的な保幼小中連携が近い将来のモデルの形成につながり、「地域で育つことの喜び」や「地域の中の自分」を感じることに繋がった。保育計画に基づいた息の長い願いをもった取組の成果をしっかりとエピソードにまとめ、発信することの重要性を実感する。

以上のように、今回の研究は、本市のこれまでの取組を改めて見直すことから始まったが、当たり前だった取組の中にある成果と課題の重要性について再認識することができた。

幼児教育の研究では、“幼児期の子どもたちに何をはぐくむのか”という観点が欠かせないが、今回の研究では「幼児が地域社会に親しみ愛着をもつこと」により「子どもたちに将来の社会の一員としての素地を養うこと」、「公共心の芽生えを育むこと」を目指したものである。

その実現には、日常の活動を幼稚園だけの取組とせず、地域の方々とのかかわりの中で進めることが何よりも大切であり、「学校運営協議会という組織による取組を継続すること」や「幼稚園の教育内容を地域の方々に知っていただくこと（社会に開かれた教育課程）」により、一層かかわりが深まることがわかった。

最後に忘れてはならないのは、幼児期に育みたい力は、答えを教えられるのではなく、幼児が興味を持ち心が動くことにより、自ら考え体験を重ねる中で育まれるものであるということであり、地域に愛着をもつ心もそのひとつである。

幼児の心を大きく動かすには、研究園の事例にもあるように、行事や取組(※)を一過性のイベントに終わらせず、継続的に幼稚園の日常に取り込むことが重要であり、それには教職員の意識や工夫が必要であるとともに、保護者や地域の方々の支援が欠かせない。

将来の地域を支える子どもを育むには、幼稚園が積極的に地域とかかわり、『園児・保護者・地域・教職員が共に育ち合う幼稚園』であることが最も大切なことなのであろう。

※…次頁以降、京都市立幼稚園の地域とかかわりの取組事例を掲載

(参考)

京都市立幼稚園の地域とのかかわりの取組事例



地域とのかかわり

京都市立上賀茂幼稚園

「地域の子どもは地域で育てる」という立場に立ち、地域の方々の幼稚園への思いは強く、協力も惜しまない。その思いや願いをもとに、次のような取組を行っている。

- 1 「月行事予定」などの配布
 - ・行事予定や園児の様子などのプリントを配布し、幼稚園の動きを知っていただく。
- 2 学校運営協議会
 - ・園内お泊り保育の計画・立案とともに、当日の安全確保などをしていただく。また、理事の1人である大学教授と連携して、保育の充実を図る。
- 3 ゲストティーチャー
 - ・生け花体験（年1回）、お茶会（年3回）の指導に地域の方に来ていただく。
 - ・畑をお借りして、大根の種まきから収穫までお世話になる。
- 4 地域行事への参加
 - ・烏相撲の見学
 - ・葵祭の見学
 - ・さんやれ祭の見学
 - ・交通安全教室への参加
 - ・明神川の魚つかみの参加
 - ・流し雛体験
 - ・加茂川コンサートへの出演
- 5 地域の方々を招いて
 - ・焼き芋大会を開き、焼き芋を食べ、手遊びなどを共にする。
- 6 地域を生かした取組
 - ・上賀茂神社での虫探しや川遊び
 - ・大田神社のカキツバタの見学や大田の小道の散策
 - ・鴨川堤防でのよもぎ摘みや土手すべり
- 7 地域の方々の幼稚園へのご意見
 - ・園長先生を初め、他の教職員とも顔を合わせる機会が多くなり、話しやすくなった。また、教職員の笑顔が増えた。園児にもよい影響が出ると思う。
 - ・幼稚園は様々な改革、取組を行っている。協力していきたい。



(↑お茶会の様子)



(園内お泊り保育の様子を見に来ている理事の方々↑)

地域とのかかわり

京都市立京極幼稚園

1 ねらい

地域の方々とのかかわり、大事にされている実感を持ち、自分の地域に愛着を感じる。

2 具体的取組

○ お茶会体験

年長児を対象に、京極学区の民生委員や更生保護女性会の方により、年3回実施。

○ 交通安全の意識を育てる取組

・親子交通教室年長児対象、年2回実施。上京警察署と地域交通安全協力推進委員の方により、幼稚園遊戯室で道路の歩き方・信号の見方についての話や模擬体験（2回目は実地体験）が行われる。

・登園時交通安全指導 全園児保護者対象 年3回実施。上京警察署と地域交通安全協力推進委員の方が、登園時、自転車の安全な乗り方について指導を行う。

○ 京極文化祭など行事への参加

地域の行事に、幼稚園の子どもたちが歌ったり踊ったりして出演している。七夕の時期には、柘形商店街の七夕祭りに幼稚園で作った笹飾りを飾ってもらっている。

○ 上御霊祭の見学

御霊祭での地域の一つ、「今出川口」の行列が幼稚園玄関まで来てくれる。子どもはその踊りを見たり、鐘の音を聞いたりする。また、上御霊神社まで、おみこしをかつぎ練り歩く勇壮な様子を見に行くこともある。

3 地域とのかかわりを通して

○ 評議員の力を借りて地域の行事に積極的に参加し、子どもが地域の祭りや商店街に関心をもつことができた。

○ お茶会体験や交通安全指導などで直接、地域の方とのかかわることで、優しさや温かさを感じていた。地域に根差した幼稚園作りのためにも、今後も保育に取り入れていきたい。



地域とのかかわり

京都市立待賢幼稚園

地域の方々は、「地域の子どもは地域で育てる」という思いを強く持っておられ、惜しみなく幼稚園への協力をしていただいている。その思いや願いを大切にして、次のような取組を行っている。

1 「幼稚園だより」「ひよっ子クラブ（未就園児）月予定表」の配布

- ・園だよりに月行事予定や取組及び活動内容・園児の様子などを掲載し、幼稚園が目指している教育のあり様を広く地域に発信する。
- ・待賢、出水民生児童委員協議会を通して、両区内へひよっ子クラブの月予定表を配布してもらう。

2 学校運営協議会

- ・「親子の学びプロジェクト」「からだ元気プロジェクト」「連携プロジェクト」の3プロジェクトを通して、具体的な活動を推進する。特に“子育て支援センターとしての活動”や“待賢カーニバル”は、地域と密接に連携して行う。

3 地域行事への参加

- ・交通安全教室 ・敬老祝賀会
- ・待賢カーニバル ・成人祝賀の会
- ・上京の子どもまつり 等

4 地域の方々を招いて

- ・「七夕のつどい」では、地域の独居老人の方を招いて、演奏会鑑賞や昼食を共にする。
- ・「ひなまつりのつどい」では、地域の独居老人の方たちへ園児が歌や遊びを披露し、昼食を共にする。



七夕のつどいへお招きして

5 地域を生かした取組

- ・二条城への園外保育
- ・二条公園での虫さがし
- ・「たいけんカーニバル」でのジュース売り体験
- ・「グリーンストア」での野菜や花の苗売り体験
- ・地域諸団体による子育て支援サポート



たいけんカーニバルでのジュース売り体験

6 地域の方々の幼稚園へのご意見

- ・このところ園児数が増えてきており、活気があって大変うれしい。
- ・支援の必要な子どもや転入してきた子どもが安心して生活し、集団の一員としてよく育ってきている。

地域とのかかわり

京都市立乾隆幼稚園

1 地域行事への参加

- 乾隆まつりの参加
園児ステージ発表参加。歌や乾隆幼稚園音頭、ダンスを披露。保育会（PTA）は遊びコーナーで参加。ゲームやくじ引きなどを出店。
- 乾隆学区敬老会の参加
年中児・年長児が法被を着て乾隆幼稚園音頭、歌や踊り、幼稚園の紹介などを発表し、学区の老人の方をお祝いする。
- 嘉楽学区いきいきサロン参加。
地域のお年寄りが嘉楽中学校に集まれる席でお年寄りの方と交流する。（歌や手遊び、幼稚園の紹介、触れ合い遊び）
- 昔遊びの会 乾隆学区地域女性会との交流
折り紙、コマ、お手玉、ケン玉を教えてもらったり、触れ合っている。



乾隆学区敬老会での乾隆幼稚園音頭を法被姿で発表

2 乾隆保育会（PTA）主催 セタのつどい

地域の未就園児親子を幼稚園に招待して、ゲーム、遊びのコーナー、ゆずります会、幼稚園説明会などを行う。

3 学校運営協議会

園児の健やかな成長に向け、幼稚園の教育活動や幼稚園評価等についてご意見をいただいたり、園児の入園に向けた有効な取組についてアドバイスをいただいたりする。

4 未就園児教育相談「さくらんぼ組」の月たよりの配布

乾隆学区自治連合会との連携により、区内回覧板にて広く地域に幼稚園の教育活動や子育て支援の取組を発信。

5 親子交通安全教室

年長組親子を対象に上京警察署と上京交通安全推進委員より、お話を聞いたり、親子で訓練をしたりする。



嘉楽学区 いきいきサロン
でのお年寄りの方との交流

地域とのかかわり

京都市立翔鸞幼稚園

○ 幼稚園だよりの配布

行事予定や園児の様子、幼稚園が何を大切にしている取り組みを進めているのかなどを毎月の幼稚園だよりに掲載し、幼稚園の動きを知っていただく。

○ ごみゼロ大作戦

学区の老人会（翔寿会）の方たちと園児と一緒に、翔鸞児童公園を掃除し、美しくしている。竹ぼうきや熊手などの掃除用具の使い方を優しく教えてもらっている。



○ 交通安全教室

年長組園児を対象に上京警察署と学区の交通安全委員会の方が実施してください。歩道の歩き方や標識の意味なども園児たちにわかりやすく説明してもらい、実際に遊戯室で模擬体験をして学んでいる。

○ 花の苗屋さん

園児が育てた花や野菜の苗を地域の方々や翔鸞小学校児童に翔鸞児童公園を使って、配っている。学区の民生児童委員会には、当日までに苗の植え替えでもお手伝いいただいている。今年で26回になる取組なので、地域の方も待ち望んでくれている。園児たちは、事前に地域の各家に招待状とチケットを持って訪問している。当日も大盛況で、後日「花が咲いた」「実がついた」と知らせてくださいる方も多い。

○ PTA主催の夏祭りへの参加

学区の少年補導委員会の方たちがかき氷とポップコーンの店を出してください、夏祭りを盛り上げてくださっている。



○ 七夕飾り

北野天満宮の七夕祭りに、参観日に親子で作った笹飾りや短冊を飾っていただいている。

○ たのしい集いのサンタクロースさんや節分豆まきの鬼さんには、地域の方が扮装して参加してくだっている。

地域のかかわり

京都市立中京もえぎ幼稚園

1 目的

地域と共にある幼稚園づくりを推進し、学校運営協議会や地域コミュニティとの連携を図り、園児・保護者・地域・教職員がともに育ちあう幼稚園を目指す。

2 取組

- 学校運営協議会の3つのプロジェクトの活動を通して
 - ・ 「親子の育ちプロジェクト」では、預かり保育時の絵本の読み聞かせや幼稚園の夏のつどいでのブース担当の取組。保護者対象には、学校運営協議会理事の大学准教授の講演会を行い、子育ての支援や幼稚園教育について話を聞く機会をもつ。
 - ・ 「地域連携プロジェクト」では、祇園祭お話の会やお茶会体験の講師として伝統文化を直接体験のできる取組を企画運営してもらう。
 - ・ 「研究プロジェクト」では、教員の学びを支える取組として、研究に関わり、示唆をいただく。
- 地域コミュニティとの連携活動を通して
 - ・ 京うちわ製作や清水焼のお茶碗の絵付けなどの伝統文化体験をする。
 - ・ 地域の夏祭りへの参加（盆踊りや行灯の絵の提供）
 - ・ 地域の交通安全の取組に参加する。（自転車教室、秋の交通安全運動）
 - ・ 地域所有の大原学舎への園外保育体験



3 成果と課題

- 幼稚園だけではできない、様々な伝統文化体験をさせていただけることが園児たちには大変大きな学びとなっている。体験させてもらったことを遊びに取り入れ、自分たちならではの遊び再現をしている。幼児期の体験を通して、地域の文化に興味関心をもって関われる子どもたちに育ってほしいと願う。
- 地域の方と話をしていく中で、形として表れている連携や交流だけでなく、日常的に登・降園の姿を見守っていただき、親子の安全に留意してもらっていることや隣接する公園についても常にグランドコンディションに配慮してもらったり等、大変幼稚園のことを大事にいただいていることを感じている。地域に愛される幼稚園づくりが大切である。

地域とのかかわり

京都市立開智幼稚園

1 地域行事への参加

○開智子供みこし

祇園祭山鉾巡行当日の午後、小学生以上の子供たちは子供みこしを担いで区内を巡行する。それに先立ち、開智子供みこし会世話人会やPTA、おやじの会の絶大なる協力の下、園児にも神輿を担いで区内を巡行させていただく。そろいの法被やはちまき、鈴なども提供していただき、心に残る貴重な経験となっている。

○開智夏祭り

地域の子供たちのための夏祭りで、毎年園児の発表の時間を設けていただき、歌や踊りを披露している。

○開智区民体育祭

プログラムに幼児の「かけっこ」と「踊り」があり、園児も参加できるように工夫をいただいている。

○開智敬老会

地域の敬老会で園児が歌や踊りを披露している。

2 その他、地域とのつながり

○学校運営協議会

理事として、自治連合会の役員に参画していただき、幼稚園の運営に携わっていただいている。

○ゲストティーチャー

お茶会体験の指導、餅つき手伝い等。

○地域性を活かした取組

祇園祭山鉾見学、鴨川へのお散歩遠足等



地域とのかかわり

京都市立楊梅幼稚園

1 「楊梅だより」の配布

園児の様子や幼稚園が大切にしている取組などをたよりに掲載し、楊梅幼稚園の教育内容や活動の発信をする。

2 学校運営協議会

- 園のお泊り保育には、地域の方が子供たちの安全確保のため夜のパトロールをいただいている。
- グリーンベルト大掃除は、学校運営協議会主催で、園庭の草引きや溝掃除など、保護者や園児と共に地域の方がしてくださる。



グリーンベルト大掃除

3 地域行事への参加

- 地域の夏祭りへの参加、醒泉学区の夏祭り「祭 The SeiSen」に参加。子どもたちが描いた絵を行燈にして飾ってくださったり、祭りのオープニングでダンスをおどったりして参加させていただく。
- 移転前に、楊梅幼稚園が立地していた地域である尚徳学区では、今でも地域の方が幼稚園を大事にしてくださり、子ども神輿や餅つきなどに招待してくださる。



祭 The SeiSen での様子

4 交通安全教室への協力

年長組親子を対象に下京警察署と下京地域交通安全活動推進委員の方が実施して下さった。遊戯室に横断歩道をつくり、地域の方が車の運転手役となって、親子で安全に気を付けて横断歩道を渡る体験ができた。

地域とのかかわり

京都市立明德幼稚園

1 目的

「地域に根差した幼稚園」であることを大切に、豊かな自然に恵まれた地域の特性を生かした教育を推進する。

2 学校運営協議会

- ・平成19年に「どんぐりーず」という名称で発足する。
- ・地域や保護者の皆さんに、幼稚園教育をサポートしていただき、子供の教育の場を広げたいという思いをもって活動している。

○組織について

伝統文化部会、学び部会、地域自然の部会の3つの部会によって運営されている。

○具体的な取り組み内容

- ・伝統文化の部会…お茶会の運営が中心である。
年長児のお茶会が年間4~5回実施される。地域の方にお茶会の指導をしていただき、保護者にはサポートをしていただいている。
- ・学び部会…子育て支援チーム「ころころ」により、お楽しみ会などを計画していただいている。毎月1回、園児には絵本や紙芝居の読み聞かせ、誕生会でのお楽しみなど、保育の中で生かせる活動をしていただいている。また、未就園児にもお楽しみ会等計画していただいたり、幼稚園説明会のサポートをしていただいたりしている。
また、未就園児の教育相談のスタッフとしても活動していただいている。
- ・地域自然の部会…遊べる田んぼを提供していただき、園行事「田んぼ遊び」に参画していただいている。在園・卒園児保護者も企画推進委員として参加してもらっている。



お茶会



田んぼ遊び

3 地域の自然を生かして

地域の畑をお借りして、親子でサツマイモの苗植えをし、収穫した芋で焼き芋パーティーをする。芋の生育については地域の方にご指導いただきながら、畑の世話をしている。

4 地域行事への参加・連携

- ・「すこやかサロン」に年長児が出演し、お年寄りの方々と触れ合う。
- ・「めいとくオープンギャラリー」に出品し、園児の作品を見ていただく。
- ・社会福祉協議会の子育てサロンの取り組みとして、月1回、未就園児の教育相談に相談員を派遣していただいている。

地域とのかかわり

京都市立西院幼稚園

地域に一中学校一小学校一幼稚園がある。地域の子供の育ちをつなげていきたいと思う地域の願いがある。地域と共に、たくさんの人に囲まれて育つ意義を子供・保護者へ発信し、将来を見すえた、幼稚園教育の充実を学校運営協議会を始めとする地域の方の力を借りて実現したい。

1 学校運営協議会との連携

年間三回の理事会と保育参観で、家庭教育講座を始め、園行事等にご意見をいただく。また、保護者を中心とした絵本ボランティアの活動にアドバイスをいただく。預かり保育にはリズムランド（リズムで遊ぶ）を企画・運営しいただく。おやじの会・PTA活動についても、意見や支援をいただく。

学校運営協議会理事から

西院幼稚園は、地域の幼児や保護者の拠り所として非常に大事な施設であり、住民には、日々明るい楽しい姿や声を届けていただき、心の安らぎを感じる素晴らしいところである。地域の宝物である子どもに集団教育の第一歩を与えて、みんなで楽しみや悲しみを共有できる優しい人づくりに取り組んでいる幼稚園が大好きです。

2 西院青少年育成連絡協議会との連携

西院地域では、第1、第2学区が合同で、育成連を形成しており、子どもたちのための行事等の企画・運営をされている。園児たちも、育成連主催の行事に参加する。

7月 金魚つかみ取り

10月 ふれあいコンサート



10月 ふれあいコンサートに出演

3 地域子育てステーション事業との連携

向上社児童館を中心に、第1、第2学区自治連合会、民生協議会、西院校園連盟（1中、1小、1幼、6保）が地域の子育て支援事業を企画・運営する。

6月 人形劇 8月 春日夏祭り

10月 子育て落語会

6月 西院幼稚園で人形劇



4 民生協議会との連携

年間4回、幼稚園を会場とし、地域の未就園児に遊び場を提供すると共に、在園の子供たちにも、音楽鑑賞などを楽しませていただいている。

地域とのかかわり

京都市立伏見板橋幼稚園

板橋地域の幼稚園であるという地域の方々の思いは強く、小・中学校と同じように幼稚園も地域の一団体として地域の中にしっかりと根付いている。地域の行事に園児や保護者が参加・協力したり、園行事に地域の方が協力して下さったりとその結びつきは強い。

1 「幼稚園だより」などの配布

- ・園児の姿や園での取組等をたよりに掲載し、伏見板橋幼稚園の教育内容や活動の発信をする。

2 学校評議員会

- ・幼稚園の教育活動や幼稚園評価についてのアドバイスを受ける。

3 幼稚園行事への参加・協力

- ・『やきいも』に地域の方を招き、園児との交流を行ったり一緒に焼き芋を食べたりする。
- ・『地域交流会』において年長児と地域の方とが昔からある遊び（コマ回しやあやとり、けん玉等）を一緒にしたり、おやつを食べたりして交流する。
- ・『もちつき』では、園児や保護者にもちつきのコツややり方を伝えたり、用具をお借りしたり等の協力してもらう。
- ・『お茶会』において年長児にお茶をふるまったり、お茶のたて方を教えたりしてもらう。
- ・『創立周年行事』の企画・運営協力を願う。
- ・『家庭教育講座』で講師として講演会を実施する。

4 地域行事への参加

- ・『伏見板橋祭』において、園児が盆踊りを踊る。保護者がヨーヨーやさんを出店する。PTA 役員が実行委員として企画・運営する。
- ・『地域防災訓練』に園児も参加する。保護者が炊き出しを行う。
- ・地域子育てネットワークの連携団体として、企画・運営を行うとともに、人形劇公演に参加する。
- ・遊戯室において、毎月、社会福祉協議会主催の『福ちゃん組』を実施する。
- ・『伏見ふれあいプラザ』に園児の絵画を出す。（平成 29 年度より実施予定）

5 地域を生かした取組

- ・高瀬川土手(花摘み・虫とり)、桓武天皇陵(どんぐり拾い)への園外保育



板橋祭(盆踊り)



地域交流会

地域とのかかわり

京都市立伏見南浜幼稚園

幼稚園121年の歴史の中で、伏見南浜幼稚園は『地域の幼稚園』として、地域の多くの方々から愛され、多くの支援や協力を得ている。

子供たちは、年間を通して地域との様々なかかわりを経験している。

○主な取り組み

《保育施設と・・・》

- ・クリーンキャンペーン・・・学区内の保育施設の子どもたちと一緒に、公園の清掃をする。清掃後、なかよし遊びなどを楽しむ。
- ・幼稚園の研究保育を地域の保育施設に公開している。
- ・3園合同で、小学校の秋祭りに参加する。

《中学校と・・・》

- ・生き方探究チャレンジ体験の中学生を受け入れる。
- ・家庭科（保育）の授業の一環として、中学生と一緒に遊ぶ体験をする。
- ・体育祭に参加し、いつもとは違う場で、体を動かしたり、中学生や中学校教員とふれあったり、中学生の運動の様子から刺激をもらったりする。

《その他・・・》

- ・『はなうり屋さん』の取組の中で、近隣の方・保育施設・障害者施設・小学生・地域の方々をお招きして、苗をお配りする。
- ・『音楽と映画の夕べ』や『敬老会』で多くの地域の方の前で、子どもたちが歌やダンスを披露する。
- ・園児が調理体験の食材の買い物をするために、地域の商店街に出かける。
- ・地域の協力を得て、こいのぼりのポール立て、お団子作り、避難訓練・茶道体験をする。
- ・地域の花傘パレードに参加する（PTA と共催）

○地域とのかかわりを通して・・・

上記のような活動の中だけではなく、日常的に地域の方々が、園児を見守ってくださっているという雰囲気がある。このことが園児たちや保護者の大きな『安心感』につながっている。



地域とのかかわり

京都市立伏見住吉幼稚園

幼稚園・家庭・地域が園や園児の実態・課題を共有し、それぞれの役割を果たしながら「地域の子どもは地域で育てる」という教育理念のもと、園児の健全育成を図る取組を行っている。また、地域の方々は園児たちの育ちを温かく見守ってくださっている。

1 学校評議員会

- ・PTA・地域の方等で構成される評議員会を定期的に関き、ご意見をいただき、教育活動の活性化を図る。また、運動会・作品展等の園行事にもご案内を配布し、園児の様子を見ていただき、ご意見をいただく。

2 「園行事のご案内」「月行事予定」などの配布

- ・園の様子を知っていただく。

3 地域行事への参加

- ・区民運動会

地域の2保育園・小学校と共に区民運動会の種目に一緒に参加。

- ・すこやか学級

地域のお年寄りの方との交流（歌を聴いてもらったり、手遊びを一緒にしたりする。）

- ・清掃活動

女性会の方・小学5年生・PTAさんと共に地域の公園の清掃を行う。

- ・ハロウィーンのイベント

児童館が主催する地域の子供対象のイベント。

幼稚園が拠点の一つなり、未就園児などにも参加してもらう。

4 園行事への参加

園児たちが育てた花の苗の「花の苗屋さん」に地域の方々にお客さんとして来ていただく。



5 地域の方々の力をお借りして

- ・登降園時の園児たちの安全確保のための見守りをしていただく。
- ・女性会に協力をいただき、親子お茶会を行い伝統文化に触れる経験をする。



地域とのかかわり

京都市立竹田幼稚園

1 目的

「地域の幼稚園」という地域の方々の思いは強い。竹田地域の地域環境や地域人材、京都の文化的行事や施設を本園の教育活動に活用する。

2 組織

学校運営協議会の「幼稚園部会」を中心に、幼稚園の教育活動を企画・運営する。

3 年間計画

- 4月 園外保育（レンゲ摘み）
- 5月 学校運営協議会 開催
園外保育（ネギ坊主・葵祭見学）
- 7月 園外保育（祇園祭見学）
- 9月 ダイコンの種まき
- 10月 地域行事参加（城南宮祭）
- 1月 親子茶道体験



4 実践例

- ・竹田地域は近郊農業を営まれている方々がおられ、幼稚園の近くの畑に、レンゲ摘みやネギ坊主見学に行かせていただいている。
また、農家の方からタケノコや野菜をいただき、ランチパーティの食材に使用して、園児が豊かな自然に触れたり、季節感を味わったりしている。
- ・ゲストティーチャーとして、ダイコンの種まきの時に、地域の農家の方に畝づくりや種まきを教えていただいている。
また、地域女性会の方に指導していただき、親子茶道体験を行っている。



5 成果と課題

<成果>

- ・地域との関わりが、園児に多くの地域の方々から温かい眼差しで見守られているという気持ちや感謝の気持ちを育てている。
- ・地域に開かれた幼稚園として、地域の方々に幼稚園の取組を知っていただく機会になった。

<課題>

- ・学校運営協議会の幼稚園部会を活性化して、地域教育を推進する。
- ・新たな地域教育の企画と、地域の人材発掘を図る。